

エディトリアル

大分市医師会立アルメイダ病院婦人科 部長 佐藤新平

令和4年度、医学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、コアカリ)が改訂され、令和6年度医学部入学生から適用されています(令和5年度は準備期間)。コアカリは、医学生および歯学生が卒業時まで身に付けるべき必須の実践的診療能力、すなわち知識・技能・態度に関する学修目標を示したものであり、これに基づいて医学部の教育や実習が計画されます。コアカリは、現段階で理想とされる医師の設計図ともいえる存在です。

私自身、地域医療に従事する医師として医学生の地域医療実習の指導に当たることがこれまでにありましたが、その際に実習プログラムの内容や指導方法について悩むケースもありました。地域医療実習を計画・実践するために、コアカリの要点・改訂点を理解すること、各地域で行われている先進的な地域医療実習の事例について学びたいと考えました。その共有は、全国の地域医療を実践されている読者の方々、これからの地域医療を担う医療系学部の学生にとっても、大変参考になるのではないかと考えた次第です。

今回の特集では、松山泰先生に令和4年度に改訂されたコアカリの要点や改訂点についての総論をお願いしました。「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」というキャッチフレーズの背景にある未来の日本の医療予想、その対応に必要な「10の基本的資質・能力」をご解説いただき、実践教育の場としての地域医療実習の重要性についてもご説明いただいています。続いて、各地域で地域医療実習を担当されている先生方に具体的な実践についての各論をお願いしました。富山大学「長期地域滞在型プライマリ・ケア実習」、島根大学「高度総合診療力修得コース」、鳥取大学「参与観察型の実習」「地域協働型の実習」、山口県「やまぐち地域医療セミナー」、自治医科大学「地域医療臨床実習」「医療行政・医療政策への取り組み」について、ご解説いただいています。

本特集が、地域医療実習の指導に当たっておられる読者の方々にとって有用な情報となることを願っています。

●編集委員会のメンバー佐藤新平先生からのコメントです

<https://www.youtube.com/watch?v=3Rtvj1KiBZO>

